

事務事業評価調査

担当課	総務部	美麻支所	課	総務	係	事務事業No.	121125	
事務事業名	美麻地域振興事業							
計	一般会計	款	2	項	1	目	12	
総合計画	まちづくりのテーマ	第5節 市民の参画と協働でつくるまち				前期計画掲載頁	93	頁
	施策目標	市民の参画・協働と市民の視点に立った市政の推進						
	施策項目	過疎地域での地域づくりの推進						
個別計画	大門市過疎地域自立促進計画						54	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	美麻地区住民			高齢化、少子化が進展する地域において、各種施策を実施し、地域の人口規模の維持を図る。				
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の声を市政に反映させるための地域づくり委員会の運営 ・街路灯の設置 ・美麻診療所への患者輸送業務 ・地域の課題解決に向けた取り組み強化のため地域振興支援員を配置 ・過疎地域で事業を行う起業家育成支援 ・過疎地域振興策として補助金及び負担金の交付。 <p style="margin-left: 20px;">補助金：美麻地域づくり会議、源流美麻太鼓の会、営農支援センター、道路愛護事業 負担金：オリンピック白馬ルート地域振興協議会、ロードレース実行委員会</p>							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		7,724,038 円		16,599,946 円		8,006,251 円		
	財源内訳	特定財源	0 円		10,235,000 円		1,000,000 円		
一般財源		7,724,038 円		6,364,946 円		7,006,251 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	美麻市の実施	回	2	2	2	2	100.0%	2
	②	診療所送迎診療	回	214	205	170	180	94.4%	200
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	美麻市参加者	人	980	950	950	1,000	95.0%	1,000
	②	送迎診療利用者	人	505	423	385	400	96.3%	400
	③								
2. 数値で表せない効果		<p>（指標①）美麻地域づくり会議を支援することにより、地域づくり活動が継続されている。</p> <p>（指標②）美麻地域づくり委員会による地域課題に対する意見具申を毎年実施している。</p>							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	16
	評価	高い	高い	高い	一部重複	普通	適正である					18
点数	3	3	3	2	2	3						
評価理由		<p>各自治会および有識者から構成されている地域づくり委員会は、毎年、意見書を市に提出しており、地域住民の声を市政に反映させる上で大きな役割を果たしている。</p> <p>また、当該事業で支出されている補助金は、地域づくりや伝統芸能を伝承していく上で大きな役割を果たしている美麻地域づくり会議や源流美麻太鼓などの活動支援に繋がっている。</p> <p>また、街路灯の設置や公共施設周辺維持管理業務により、地域の環境維持、安全確保が図られている。</p>										

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>起業家育成支援事業について、要綱で不備が指摘されている部分の改正が必要（①どのような起業であっても良いのか ②起業後3年間は事業を継続することについて、どのように確認し継続性を担保するか ③補助金の返還を要する場合はどのような場合か）</p>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・起業家育成支援事業については、上記課題を解決するよう、昨年度末に要綱の改正を行なった。 ・地域づくり委員会については、美麻地区の振興に関する事項について諮問した。年末までに、答申をいただく予定である。 ・人口減少が進行する美麻地域においても、住民の生活に必要な生活サービス機能（買い物、移動支援等）及び集落機能の維持や産業の振興を図る、「小さな拠点づくり」事業に取り組む。

事務事業評価調書

担当課	総務部	美麻支所	課	総務	係	事務事業No.	121126	
事務事業名	メンドシーノ交流事業							
会計	一般会計		款	2	項	1	目	12
総合計画	まちづくりのテーマ	第1節 ふるさとに誇りを持つひとを育むまち				前期計画登載頁	40	頁
	施策目標	心豊かにたくましく生きる子どもの育成						
	施策項目	特色ある交流事業の推進						
個別計画	大町市過疎地域自立促進計画							
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	美麻地区の住民及びメンドシーノ訪問団			将来を担う若者に国際交流を体験させることにより、国際感覚を身に付け、積極性を担う機会を設ける。また、幅広い年代の市民が参画することで、市民レベルの国際交流を推進する。				
主な業務内容	アメリカ合衆国カリフォルニア州メンドシーノ訪問団の受入又は派遣（隔年） ・負担金：受入時 900千円（H29年度は芸術家交流10周年事業実施により1,100千円とした）派遣時 約3,000千円 ・旅費：派遣時 約900千円							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		1,100,000 円		4,234,078 円		900,000 円	
	財源内訳	特定財源	円		円		円	
一般財源		1,100,000 円		4,234,078 円		900,000 円		

活動指標	指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
			実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	受入れ人数	世帯	25		30	30	100.0%	30
②	派遣人数	人		28				27
③								

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	交流事業参加者	人	450		450	450	100.0%
②	ホストファミリー	件	13		15	12	125.0%	15
③								

2. 数値で表せない効果

（指標①）参加した児童及びその保護者が当該事業ボランティアとして関わる事例が増えてきている。
 （指標②）自治体国際化協会の姉妹自治体優良事例として紹介されている。

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	重複なし	普通			
点数	3	3	3	3	2	3	18			

評価理由
 メンドシーノでのホームステイにおいて、異文化でコミュニケーションをとる経験は、参加する児童のコミュニケーション能力を高める貴重な機会になるとともに、国際感覚を養う機会をもたらしている。また、メンドシーノ訪問団を受け入時は、地域住民の多くがボランティアとして参加している。このことから、地域としての相互理解が深まっているとともに、地域住民同士の相互理解にも役立っている。

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） <ul style="list-style-type: none"> 訪問時、燃油税を含む航空運賃、宿泊費、食費の高騰により実行委員会会計が圧迫されつつある。 少子高齢化が進むことにより、交流の主体となる児童や、ホストファミリー・PTA・地域ボランティア等、協力者の減少が見込まれる。 コロナウイルスの影響で、今後の訪問、受入れについては現状見通しが立たない。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容） <ul style="list-style-type: none"> 訪問団派遣時の実行委員会負担金については適正な積算により予算要求を行う。また、不足が予想される際は訪問団員の負担金増など、実行委員会としての資金確保を考える。 児童等の減少に対しては、芸術家交流やH30年から相互交流の芽が出始めているロータリークラブの交流等も含め、美麻地域の枠を超えた交流も模索していく。 両国の新型コロナウイルスの状況を確認しながら、収束後の安全でスムーズな渡航に向け万全の準備を進める。

事務事業評価調書

担当課	総務部	美麻支所	課	総務	係	事務事業No.	1211212
事務事業名	美麻定住促進事業						
会計	一般会計		款	2	項	1	目 12
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画掲載頁	60
	施策目標	移住・定住促進策等の充実強化					
	施策項目	過疎地域における移住・定住促進					
個別計画	大町市過疎地域振興計画						頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）			
	美麻地区住民、美麻地区への移住・定住希望者			過疎化が進む美麻地区において、地域の人口増加を図るため、希望者の移住定住が円滑に進むよう、定住促進住宅をはじめとした居住への支援、また、定住促進奨励金などの施策を講じる。			
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度 新行地区 3棟用地買収 ・平成28年度 新行地区 建築設計 ・平成29年度 新行地区 造成工事、住宅3棟建設 ・定住促進奨励金、住宅新築資金利子補給金、就職促進奨励金の交付（美麻地域振興事業から組替え） 						

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		74,124,940 円		689,043 円		86,677 円		
	財源内訳	特定財源	54,600,000 円						
		一般財源	19,524,940 円		689,043 円		86,677 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	定住促進住宅建設	棟	3	0	0	2	0.0%	3
	②	定住促進奨励金	件	1	0	0	1	0.0%	1
③	住宅新築等利子補給	件	2	2	2	3	66.7%	3	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	定住促進住宅入居者	人	60	54	57	60	95.0%	60
	②								
③									
2. 数値で表せない効果									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	2	3	3	2	3		18		
評価理由	<p>①住宅建設により、16世帯57人（内、中学生以下21人）が定住しており、地域の活性化が期待できる。</p> <p>②移住希望者から空き家に関する情報について問い合わせはあるものの、具体的な紹介にいたらない。</p> <p>③定住促進奨励金などの助成も、移住者への支援効果が期待できる。</p>									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>①美麻地区は山間地域のため土砂災害警戒区域等の規制がかかった区域が多い。そのため、新たな定住促進住宅の建設に適した規制の無い建設用地の確保は容易でない。</p> <p>②美麻地域には79件（令和2年1月末現在）空き家が存在する。しかし所有者の意向確認まで至らず具体的な情報提供に至っていない。</p> <p>③過疎地域定住促進奨励金及び過疎地域就職促進奨励金は過疎地域への移住促進施策として有効だが、近年は活用件数が少ない。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>①定住促進住宅建設のための用地選定は、自治会等の協力を得て行った。</p> <p>②自治会、定住促進アドバイザー等を通じ、空き家所有者の意思確認等の情報の提供を受け空き家情報の確保に努める。</p> <p>③定住及び就職促進奨励金については、該当者に申請漏れがないよう、わかりやすい情報発信を心掛ける。</p>

事務事業評価調書

担当課	総務部	美麻支所	課	産業建設	係	事務事業No.	1211215	
事務事業名	ほかほかランド美麻管理運営費							
会計	一般会計	款	2	項	1	目	12	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画登載頁	56	頁
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進						
個別計画	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進						
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	地域間交流の促進、観光事業の振興及び市民福祉の増進を図ることを目的とした施設。道の駅として、幅広い年齢層の市民や観光客等が対象。			市内唯一の道の駅であり、また美麻地区の地域交流・観光等の拠点施設であるので、良好なサービス提供のため計画的な維持修繕を行うとともに、指定管理者による各種イベント等により利用の促進を図ってきたい。				
主な業務内容	○指定管理施設の維持管理 ・ほかほかランド美麻指定管理料（2,507千円） ・大広間カーペット、宴会場前女子トイレ、非常用照明、厨房エアコンほか修繕 ・テーブル型冷蔵庫ほか備品購入							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）			8,157,310	円	8,117,011	円	10,119,170
財源内訳	特定財源		15,021	円	38,826	円	53,807	円
	一般財源		8,142,289	円	8,078,185	円	10,065,363	円
活動指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	施設・設備維持管理	1	1	1	1	100.0%	1
	②							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	利用者数	78,913	75,683	73,136	90,000	81.3%	82,000
	②							
2. 数値で表せない効果		（指標①）メンドシーノ訪問団の宿泊場所として長年の実績を有し、姉妹都市連携の推進の一翼を担っている。						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	普通	普通	重複なし	普通			
点数	3	2	2	3	2	3		18		
評価理由	指定管理者により、地域間交流の促進、観光事業の振興及び市民福祉の増進を図るなど、設置目的を理解した運営がされている。 神城断層地震後の再開から4年が経過したが、利用者については震災前の8～9割で推移しており厳しい状況となっているものの、毎年新規自主事業を実施したり運営協議会で地域の意見を汲み上げて、地域に配慮した運営を行うなど、住民サービスを提供できている。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は再オープン4年目となり、指定管理者は経費削減に努めながら新たな自主事業を行うなど収支改善に取り組んでいる。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け令和2年3月10日から全面休館となったことで、最終的に昨年度を上回る赤字決算となった。また、利用者数についても、当初の利用見込数を継続的に下回る状況となっている。 ・施設・設備の老朽化に伴い、修繕費が増加している。 ・ほかほかランド美遊については、具体的な有効活用の検討が必要である。
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響による休業期間があるため厳しい状況ではあるが、指定管理者による新たな自主事業やイベントなどの利用者増加に向けた取り組みに協力し、集客へつなげたい。 ・指定管理者の意見を聞きながら、優先順位をつけて施設等の修繕を実施していきたい。 ・ほかほかランド美遊の活用については、美麻地域づくり会議から「小さな拠点事業」で活用する案が示されているため、今後具体的な検討を行う。

事務事業評価調査

担当課	総務部	美麻支所	課	産業建設	係	事務事業No.	16152	
事務事業名	ふたえ市民農園管理費							
会計	一般会計			款	6	項	1	
						目	5	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画掲載頁	60	
	施策目標	移住・定住促進策等の充実強化					頁	
	施策項目	都市との交流の促進						
個別計画							頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	地域資源（遊休荒廃農地）を活用し、都市住民との交流と共生を図るとともに、地域の振興と活性化に寄与する。市外在住者対象			都市住民との交流事業に加え、体験用施設を活用して新規利用者を獲得し、利用を通じて移住・定住促進に繋がるよう施設を管理運営していく。				
主な業務内容	○交流促進センター及び休憩施設付農園49区画の管理 ・センター・休憩施設の管理業務委託（利用者の受付・日常清掃・農作業技術指導等を含む） ・市民農園内（農地を除く）の草刈り・除雪業務委託 ・休憩施設屋根塗装修繕 4棟							

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度			
	総事業費（決算額）	20,468,209 円		22,461,367 円		22,391,542 円			
	財源内訳	特定財源	18,560,460 円		17,635,944 円		17,703,765 円		
一般財源		1,907,749 円		4,825,423 円		4,687,777 円			
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	休憩施設契約数	棟	38	36	33	42	78.6%	42
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①								
	②								
2. 数値で表せない効果									
(指標①) 都市住民等に「農業・土・自然」と親しむ場を提供し、都市と農村の住民交流を図ることにより、地域の振興と活性化に寄与している。									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計	
	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化	継続				16
	評価	高い	普通	普通	重複なし	高い					
点数	3	2	2	3	3	3	18				
評価理由	遊休荒廃農地であった当該エリアを農作物等が収穫できる体験農園施設として整備することで、土地の有効利用を図っている。 また、当該施設は都市部からの利用者が大多数であるため、都市と農村との交流の場ともなっている。										

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> 平成8年～12年に建設した施設の老朽化が進んでおり、修繕箇所が増加傾向にある。 令和元年度は、休憩施設付農園1区画が空き区画であった。 開設から24年経過する中で、施設の目的や運営方法について、見直しが必要な時期を迎えている。 施設内にイノシシなどの有害鳥獣が侵入し、農作物に被害が発生したことで、利用者から対策を求められている。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<ul style="list-style-type: none"> 屋根塗装等の建物修繕については、今後も計画的に行っていくこととする。 休憩施設付農園の5区画を体験用として活用し、移住・定住の促進とともに空き区画の解消を図る。また、地域のイベント等の情報を提供して参加を呼びかけ、地域との交流促進を図る。 施設のあり方について、地域住民の意見を聞きながら検討を進める。 有害鳥獣対策として、施設内の農作地に電気柵の貸与を開始した。

事務事業評価調査

担当課	総務部	美麻支所	課	産業建設	係	事務事業No.	16153	
事務事業名	おおしお市民農園管理費							
会計	一般会計		款	6	項	1	目	5
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				前期計画掲載頁	60	頁
	施策目標	移住・定住促進策等の充実強化						
	施策項目	都市との交流の促進						
個別計画							頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	地域資源（遊休荒廃農地）を活用し、都市住民との交流と共生を図るとともに、地域の振興と活性化に寄与する。市外在住者対象			都市住民との交流事業に加え、体験用施設を活用して新規利用者を獲得し、利用を通じて移住・定住促進に繋がるよう施設を管理運営していく。				
主な業務内容	○管理棟及び休憩施設付農園36区画の管理 ・管理棟・休憩施設の管理業務委託（利用者の受付・日常清掃・農作業技術指導等を含む） ・市民農園内（農地を除く）の草刈り・除雪業務委託 ・農園駐車場の舗装修繕 7区画							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		6,227,202 円		6,077,869 円		6,633,663 円		
	財源内訳	特定財源	12,342,895 円		12,212,423 円		10,505,792 円		
		一般財源	-6,115,693 円		-6,134,554 円		-3,872,129 円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	休憩施設契約数	棟	26	26	24	32	75.0%	32
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①								
	②								
2. 数値で表せない効果		(指標①) 都市住民等に「農業・土・自然」と親しむ場を提供し、都市と農村の住民交流を図ることにより、地域の振興と活性化に寄与している。							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	普通	重複なし	高い	適正である			
点数	3	2	2	3	3	3	18			
評価理由		遊休荒廃農地であった当該エリアを農作物等が収穫できる体験農園施設として整備することで、土地の有効利用を図っている。 また、当該施設は都市部からの利用者が大多数であるため、都市と農村との交流の場ともなっている。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	
<ul style="list-style-type: none"> 平成13年～16年に建設した施設であるため、今後屋根塗装等の修繕が必要である。 令和元年度は、休憩施設付農園10区画が空き区画であった。 開設から19年経過する中で、施設の目的や運営方法について、見直しが必要な時期を迎えている。 施設内にイノシシなどの有害鳥獣が侵入し、農作物に被害が発生したことで、利用者から対策を求められている。 	
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）	
<ul style="list-style-type: none"> 屋根塗装等の建物修繕については、ふたえ市民農園とあわせて計画的に行っていきたい。 休憩施設付農園の1区画を体験用として活用し、移住・定住の促進とともに空き区画の解消を図る。また、地域のイベント等の情報を提供して参加を呼びかけ、地域との交流促進を図る。 施設のあり方について、地域住民の意見を聞きながら検討を進める。 有害鳥獣対策として、施設内の農作地に電気柵の貸与を開始した。 	